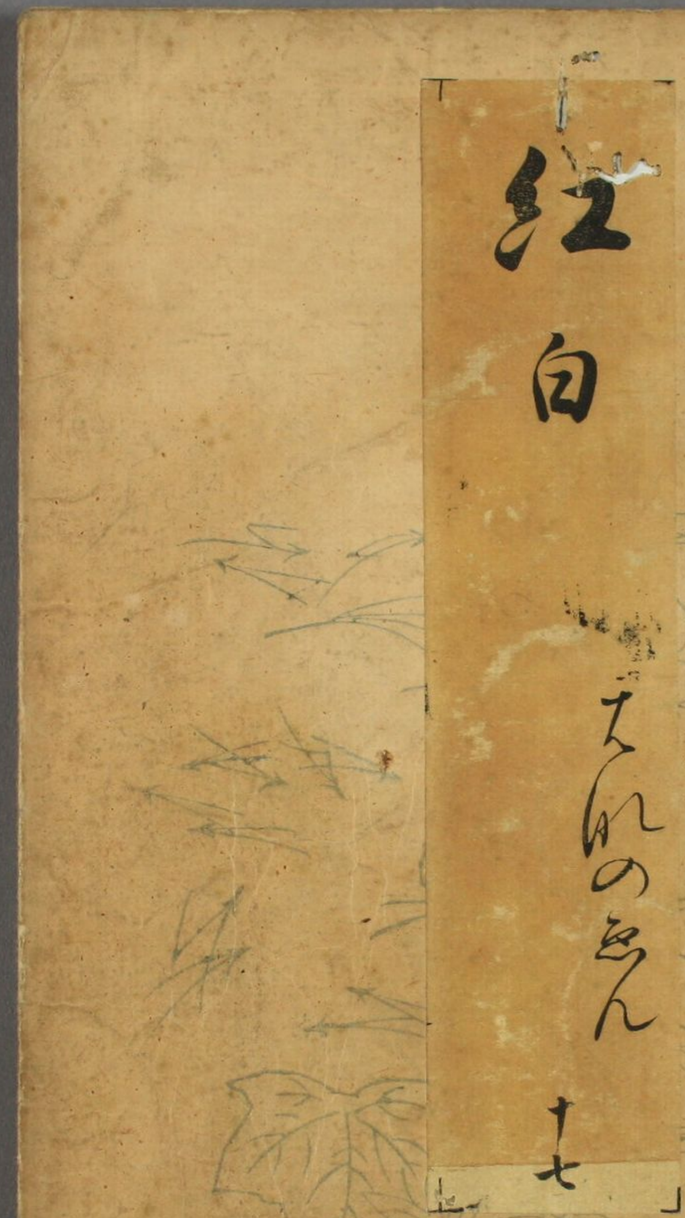
紅白

大和のゑん

十七



須ニ(すま)ノ明(あかし)后乃月見(つきみ)之

文曜文庫

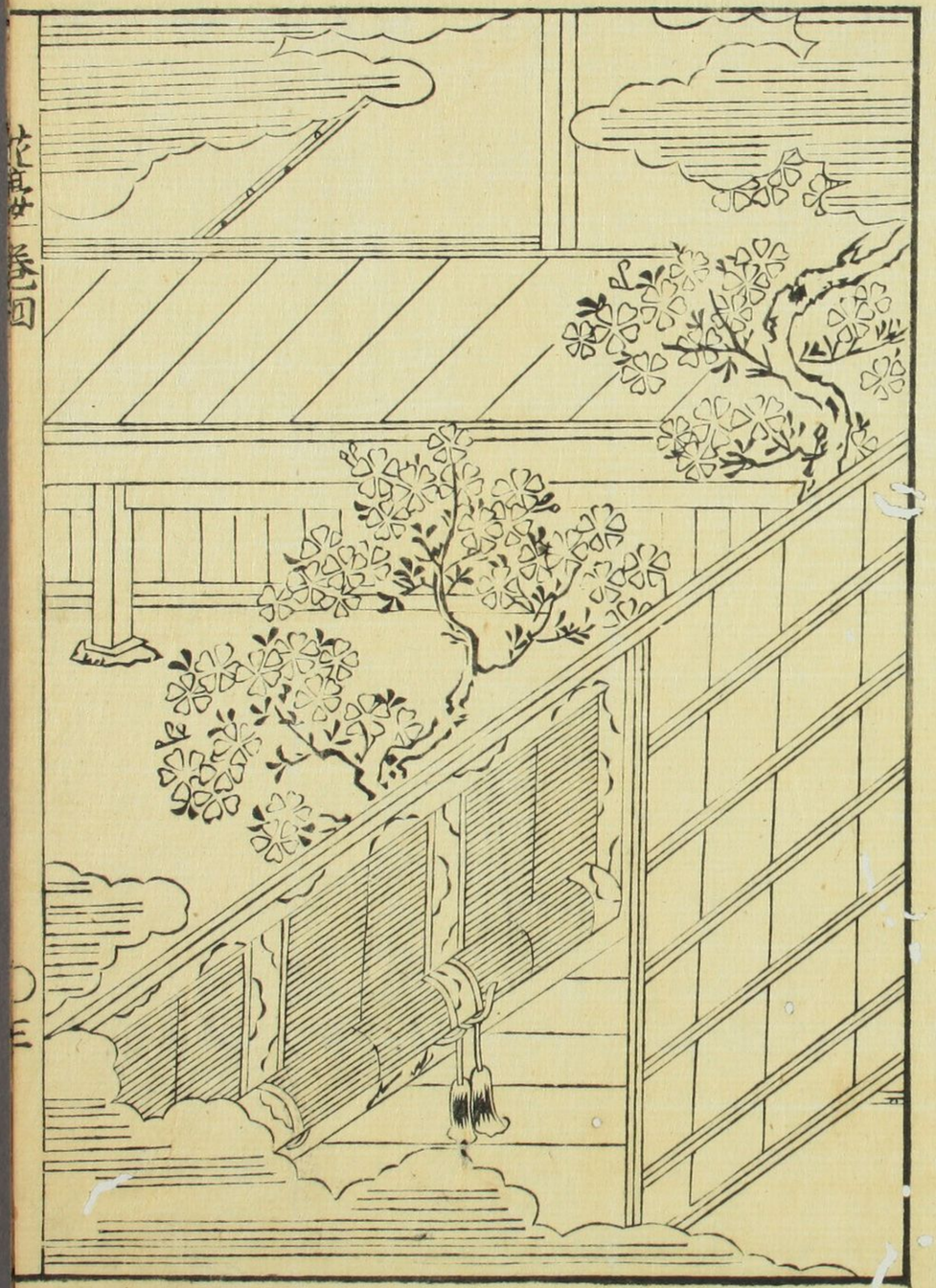
ひ(の)ニ弟育(ぬる)戸口(とぐち)ヘ覗(のそく)が分別(ふんべつ)場(だ)

たゞ可(ゆ)を[illegible]

[illegible]

京ハ遍天の石駅也。東海道の宿山記が。大ゝ幕の
うちおさめ。いかふこゆこなれだとて。雪見ありまく
うつ人もなし。あこごやいえの山おろしに冬ごこ
もりすゝ為のしたハ。室蘭多仙乃なげいま。浅田
深乃ほほひに登もたざりて。としつきの葉のゆ
一枚おくまバ人のさもものゞにありて。乃さぞの柳乃
つがこゝろ。花見の海くとうらいじめ。日雪ありくの
なゞめ。いつまたやこ乃風俗ゞかし。二月をつひま
まいり。祇れん記もすぐて。うゝとしいとりつけのど
うふ。廿日道より。ひがし山の花も。そろくかころ
びて。紫木乃紫蘭殿乃まへなる梅を。おもひなし
まや気も匂ひも。かゝのとハ色おもなかふちゞひめの
わかハ。花もすぐせのわさらぬなるべし。天竜合

もうらつゞさて。乃しゝなる宮乃かしさなれど。大裏
まで花の色んせさせまふ。このたひも海ゝ。森本乃御
もよほしわまバ。茲つかの石も。雲家も。此つがのを
此門のたりたるまさしひて。此かんぶ川あるふ。こうさ
でん乃女御を。ゆゞつがのさたきゝ乃。なゝ姉もなさ此
らゝおまそおりしますを。ありかしごとに祇ゝ海しく
おほしめして。つゝくゆゞつかのよりまふありまを
いかなしふも此出合わらざれども。物見となるハゆ
りしこさふえらへりて海いりまふ。日いとくとまて
見乃あしき。鳥乃こゑもしまげなるふ。虫乃いさごを
しさるゝ此庭のまん中ふ文庵をすゝて。こそうつる
詩乃題。韻字を函て。親王をはじめ。公卿上人
をいつまおよぎば。北下乃学しやまて。韻字を



さぐりて路銀(ろぎん)をつくらしきをかよ。ひとりくかねといでく
文意(ぶんい)乃まよひなげきつき。新字(しんじ)をこしらへて。節乃かふ
じやふいふもじをあらはしかれ。あるハかな名(な)
乃かなる。漢しにへまが御しこさ事(こと)ともなり。先生ハ
音といふもじをよりのひきしも。花見乃席(せき)り音
さいはひなり。あらしかなかのりのひしにこゑさく
うつしくもがら乃くハいかく御門なる声すゞうし
歌よ狂歌(きやうか)ぬ。ひくる屋を見まづてそあり也。こら
かりし物なりて。よろぴも乃しくぐよ乃人よハ
みさ御はとさてがら乃人〳〵ハ。見なおもしろ。汝らり
つあ乃人形(にんぎやう)を見るごとく。とこめも喰くえぞ。さすれ
さなよ歌のやうなるあせりなそぴひうげまうつるひて
あらく見ゆるほつさども於かし。御とてや地下(ぢげ)乃

学者(がくしや)たち。都門声家のに学者(がくしや)なりハかしこくおかつかまつせバ
いつまでも公家流(くげりう)学まんよんげげざるもなく。その内(うち)よハ
よくまて詩文(しぶん)乃上手(じやうず)わ御らわまで。まづうしくそ
をるくとふまりなた。世のはさごとしこなるべきら
店屋のなんまへひとりづゝわあくいづるよ。いづまらく
とハ佗ようつず。おもんで。やすきてしるふかずやぴらし
あるら。らつより切(き)の入さる偏屋(じやしや)どもハ。志てらが御だ
まの小びんつきハそくあて。ひさはよなる見ゑを下せるつ
うらみんなおもしろからん。かゆうなるたま乃に合(あひ)ふ
あびくなわかまハ。やそらかな立(たち)おかるもひなふ
乃くもなる見ゑ。これをおもんで。ひころなふの見ら
まもあにこそつむず。まー(?)なり。雅楽(がく)なるだんりず
おかく。えもいえばあてませまひさるまよまず

なりし永き雲乃日も。入るまなりて。雲の雲時といふ楽
中にもおもしろうあるに。光君去の名乃笑れおり
うら。春海波を舞まひしを。いさにますらまだ。おかし
めしいさいれて。春ぐうより。かさし乃雲を下されて。遥
て此所なりあれば。乃がまいかくて。光君に聞て。地を
ひかへて所を一さり。あしきづりまひまず。地下乃
まひ人のといかく酒に。おもしろさどうもいえまず。法
男乃左大臣。あひのうへとむつましからぬもよくあれ
とも。舞ぶり法中乃志なりを見まひてハ。うらめしさ
もつきいて。感しきをして泪おとしまふ。殿中ぬへ
も此所なり。おろしくとせめさせまへど。極笑藐と云
舞をもし此所なりもやく。ないくんがけるかけや
なかくとまいまてうりしろ乃おもしろさ。此かぜ

此感わさうらず。御衣をとぐさいなわがめつらしきなり
しまりと。人をうしゆくおもひまいらう。公家此大の名
乃らしす此所なりけれ。舞示わりしうども。よにいり
ていさしておもしろ面さうもあるにつけず。舞がくをてぬき
ハ。見ぬ心よりもじめて。つくらせまへる詩とを。板
傳もなふ。まがり乃此庭なりおさくるか文章紙
此なりまをして。紫宸殿の此階の下に。文人ども。す
いりて。此をよ詩をよ見わづる。光君乃つくらせまへる
詩をば。講師もえよ見やらず。一句くよおもしろく
を傳。詩人も見な感涙をながしけるか。かやうに古文
表質乃うらひことふも。すぐまてる詩を作りいぐし
ゆくやうらふ糸所の此海のありふしを。琴笛乃
音をムもおまひぐりせ。まひぐりの見ごとさ無

水木居の母もたぶし。なゝかゝるにつけても。光君をうち乃
こゝろ乃立柄。公事なるまゝ乃一板官判ありしまへだ。年か
ゝかどもおろかにおほしめさん。ゝいとゝしゝ君の胸
うさもことゝりうゝし。藤壺乃中宮光君とゝ決
あるゝ御中。人々をつゝ君まへたてゝ。うつぐよハうと
うゝしくもてなしまへども。ゝゝ乃うちよハつけ
まて。ゝゝてやゝ其二疎不乃立すぐ。こ逢川の
おぼゝに君せても。おしをなやすべきふ。書宮乃御
たくおうさぞん乃女ゝ乃。光君をしんうこかしぞ
ゝ君まふもあやしく。つまゝかくまでおもひまゝ
するも。どうしてこの孫じや御らかゝ。身なぐらもん
うく。ゝゝよくくおもへだ。こうさそんのそれ君ゝこ
まふも。つゞかくいとおしくおもふ。ハうらたしなる

世の人ゝやとおもひなし
大ゝしり。宮のすゝこをゝ君ゝ御しうぞ
つゝもゝのおりまゝやゝ
[illegible]
人よゝをおさ川ちゝ[illegible]
大ゝこのやうにひろ君をおもひ[illegible]
ともあるゝ御しきふわゝりかくおもふ[illegible]
光さ君をうく君まゝもゝかゝなり

ゝゝのうちにおもひつゞあさせまひしことの。いそうこそ
まゝ出あん。とくくかゝすことゝ。わらはてよ乃中ぞと。お
そ迄。其日ハ二疎不もおほく。詞もわゝるゝを清
ぢゝ御ふ。よふけてゆうくことすこゝぬまゝ。人くも
まかりいぞ。后妻宮もかつてをまへだ。わとゝ物し
つゝふなりぬるふ。ゝゝうさしいぞ。おもし

ろきねやのかしきさうまきハ。えんえんたるひかりちらようこのまき
いりし。この月見すてゝゆきまさじ。見る人ぐハ一
日のあんじけんそびきて。よくねうらさめあわれだ。かゝや
うちおりうちね(こうじ)ひ。おもひのはねおりだし。いおまて。殿
つかわさりと。いりうてあびてうかゝひあうあかゝや
立まち王令(わうれい)ゆゑ。つかひ〇のみえものかくさして。人
おもをさねだどひかて。たけきうつし立かへてのん
とあるひしが。どうやしこのゆふ。ところとらけて
み〇ひせんも。すげなさにやすねだ。もしやとあやうさ殿(でん)
のかうどのにうちよりて見あさで。かうどのへいづる
とうるよ。三つあつ戸の。すこにあくらうろ戸ぐら
あそて。うるひいこうろぞんハ。ゆきのおとのやうせ
らき。人まくさるゆうさけし。おくのうさのころ

ごさどうよハ。あるさじとおもへり。光君ハ。一日乃御
酒(しゆえん)寡よ。あるこゝろお血乃うずつもりてよひきぶ
ん。さるさぶふ。血乳乃つまさいっざり。あひまをき
よ。こ乃まくまるゆゑんハ。らちあしく。女もいまぶいっ
ちけの。身ぐよいくとして。つまれんもえあらぬる
面し。わくつんと。いるひことゞり。わくあんまゆく
いふうちふ。るんるくこしすれて。さてこおうしれさ
まへだ。おもひるしにや。いさゝしほのいろゆして
うつくしさもいとあしさもかさりるさに。まやよ
もわけゆけだ。んわいたくしく。女ハまして。まつる
しひゆうまつしひゆゑ。さ面くよおもひれさふる
くしさるんだ。光君。名をかのりあへ。いかしして
ゆゑをもかよハまへきぞ。このまゝかゆれるんとハ

さりとハおもひまりしとのまへも

臨川花

うさ男よにやうくさまなばしろ○ても

菓のちしをハとりしとやおもふ

臨川よろ家なりもしこの御さてぞうるくなりさしハなにうしを
おそりしうつ。菓のりしまてしぞ○まりんうつ。ふうきにんざし
なるへさふ。なのしさまはれしきぬとてうちさしにひまふ
ようさやうしくいうほくんとてぞにてなりともわひまり
こうやうきにんざしなるへきれとかこらさるなり

ぬ。うこちうさ海。うしめしさうなるまりめつりひ令
をしてくも。わさしくぬかどかしまらしき志なし
よ。光元によくなづこまひて。海しにさくしぶへ話
もことりぶりし。なのしずさ海づ○まりごさといふ
志んていまてハゆめくなし。こなるひひなし乃。あや
まりぶやとて

光元

いづまぶとつゆのやしりをりんまりし

小ざしが原りしかともこうかは

こうさぞん方の人にて海しませだ。ひどろこうさちんぐさと
光元とハ。此中しかれだ。もしさりしきしやいでき
なんうまをこさのぐくにおもふまゝまがはぬやうになのり
まてしうふそのへと。色をぞふ志しくバ。文をかしうれ
色さゆうもなしとりふなり

そもじさへ光元まおほしめさだ。ことへこの方乃ふめ
いかほどなんさなるめふわかしても。なふかうるしかんん
もし海ることだぞらをとりて。うまをかこうけに。さい
ごうしに志くなもしら思ずふ。このようやこなんぬ
おもひしなふかぬ。まやことにいひもあへだ。ひとぐ
おささうざうへ乃此つがひへ。此むかひよ海いりちぶふ
もしきけし。廿中わ海ふ立さりげだせんかくもなく
く。わつざげりを。角ひよしりかりして。いて人

とり見つけらるゝまてとわしきゝゆか
うゝ思ひ給ふとぞ

二条太政大臣元
右大臣殿
朱雀院の御母
すめ姪又ちゝめハ
太政大臣乃左大臣
に左政大臣ふそ
うせられしほ
なりけり

藤大納言

宮の少将

左中弁

弘徽殿女御

帥乃宮少弐

頭中将宮

五の君

朧月夜尚侍

朱雀院の御時の麗景殿の女御の父
なり此の文の藤の将の父大臣のつゝひよきまゝ人
おほろ月よの大まへより出の御付れおほりせし人
宮の御かた中弁いそぎ出ておほりし給とわり

大后とも又大政后ともいふ
朱雀院の御母なりさて此にはきさきとわるハ朱雀
院の御まかりわかいの時又皇太后宮に御後ひ
りうの其の時はにてうせきたひさうは見えてふり
れん今の御出て女政后といふ御の字を付あへり
よくまそ御後の君わし見る人のとつけまへ

日の宮きさきなり

此君又朧月夜とわる 二の人のまゝなり

[illegible]

藤の笑(ゆじ)ひ

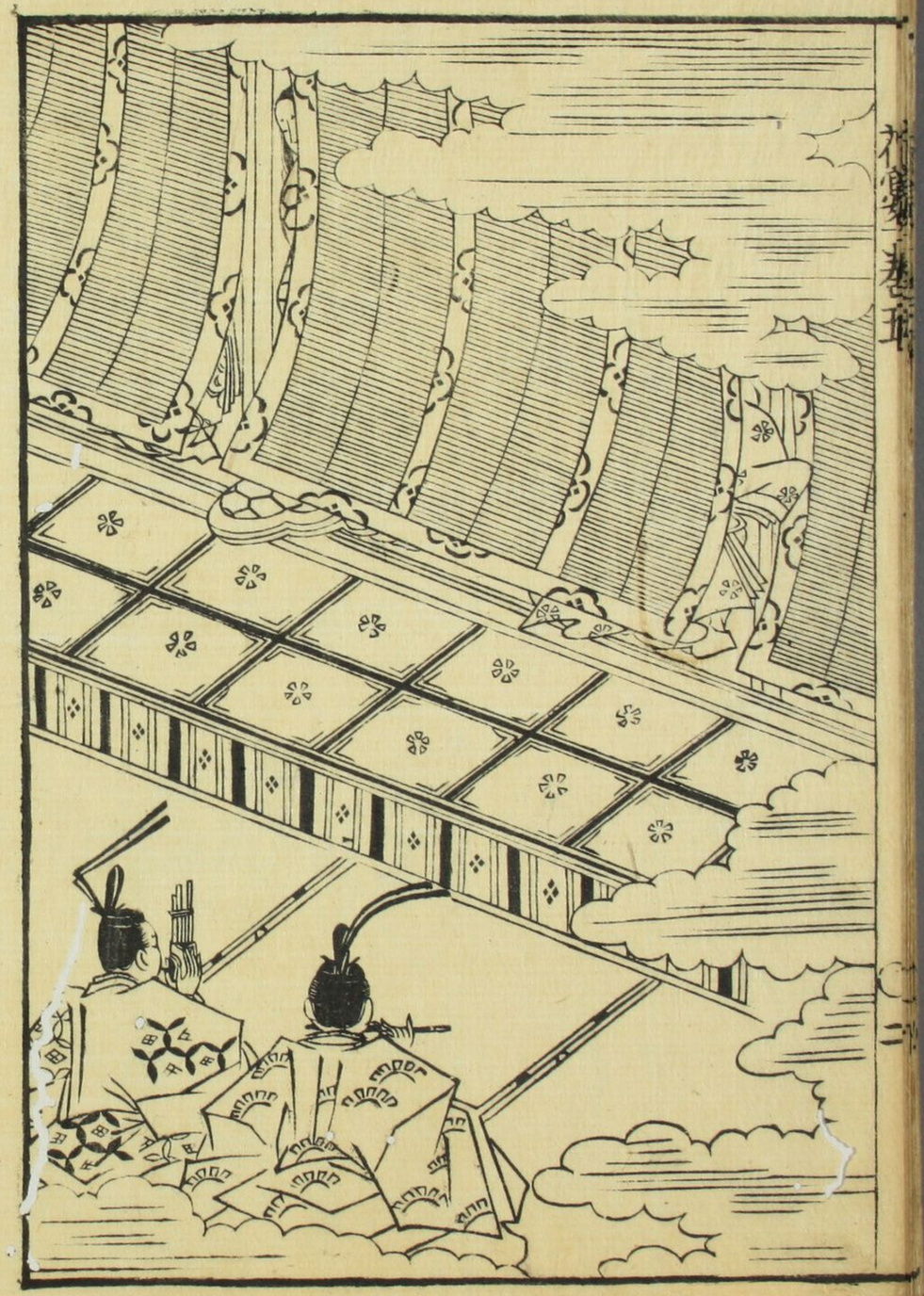
[illegible]

よひうぶんりわいさのしるしはぐいら

[illegible]

光君御保息更へうつて拙まうでぞ。このふ乃笛のゑんの翁
系図拙り。江里まうりさうんでわすれ。ありがたこ
ふゆすかんいてろが。いまさいびさがちうあもわり。ゆうく
めをさ海しうろもありてござのふハ。おがうしう拙りくゑ
まての江流しめ。江ていびきそて。さりひもあつまいつと
にておもひしに。さハあうて。夜ひとよいうてへうれ忍ひ
あつまき。ゝなもわうぬ性わうさ毎りなと。そてゆさてでござ
にてそうれをしていふもわり。光君ハ。人くのめを
さ海せもこのごくにて。うろうと江家のうちへいうて拙
まひて。ゆすませきへども拙うまも。さそくご
よひそおもひうけぬかりがをせしてこうか。からも
らしこさよ○さ回ぞてさぐうたにも。めつひとはなん
えぞ。いうさ夜こうこさでんのさいもとして乃内侍さん

御ぶゑんづうしあいぬる。五六乃姫君さんぞう乃命の
にいまさらハ。丸ぶゑんづさそ。帥の宮乃北のおさえは
院中将の江内侍をふいしぬうりハすれども。こさう身うより
とせふん乃とりさご。こよひわいしハ。まさん人の上にかく
らぬと丸てそ。うおくしかりしぞ。いつうのるす。ゝ乃北の
かさあちうらば。いよくおもしろかりつらん拙をと。といひ
あみぞまいの性わうありくろ。六の君をいうひく春宮
へうそまうらんと。又右大臣のおそろざしまへゐかを
おもひすぐこよひまん水をちあけつまぞ。その
わとを。ゐう念へゆづりあんもおそまおほく。春宮
乃御んしも。ゐうゆうがてんをねとそぶ也。みくさくとし
めさんハ。女乃こゝもいとおしうろへこさぞや。五六の君
いつまでとうふこさぶめぬかとへ。よろめくら



んもいづらうるぞし。かのよ〇も。よほどすらすいまふ
さらふりふそ。かさ〇てありしとハおもハぬましきすり
つるふ。どうしたあんていまて。ふしうよいすへさもび
さをも。おしへざりしぞ。ふえぬことかすね。ふよく お
もひすも。ふふ乃と雨るするべし。ありしすらかの
よ〇。わまりかるくしきあらうす。女をよろちよ
つとあるくにも。ともしびをもさせて。人をつま〇バ
あるらぬがおさぶ雨り乃おさてすり。かゆうすることに
つけてもまげか乃あふひのうえを。さほしく雨あり
てうりさるらぬぞ。つきへの女中まで。うるくし
く。ふふいりてかりとまるまはあるくこともせまで。つ〇く
うまちざすぞて。すくさかまハすらぬとふそくよ也
しハ。いかねうまゆうあんちがひぞうし。[illegible]と[illegible]

んまハ。あふひのうえ雨さるるあらじ。いふくらすら女
まハ。田ざんのすらぬよの中。たるこハ[illegible]つまふせらる
ふぞうし。雨る神じつか乃中宮も。さ雨くとふがけ
つあ法まりしつ。ふをそざさてうかへども。中く[illegible]
てものいふるもすらず。こまひとへる。ふじつか乃ふ
男もちかるくしからぬ也へぞかしと。かすこゝる
おもひそら通しまふ。その日を[illegible]乃事にて
ふ[illegible]乃ふ遊。光君をさう乃[illegible]をひかせまふ
こさのふの[illegible]とハかいり。あつかりとしておもろ
さ。かんまさへる事ぞもすり。わかつさぞふゆうく
ふ遊もまてぬまぞ。ゆじつかをすぐに。ふとのおり
のかしをれ。ケすを[illegible]もまたぬまぞ。か乃よ〇
さしへやう通りぬらんと。ふもあらすらで。[illegible]の

こゝにてうつ。よし清性光あんよ。とくかくひふくめて。うまぐ
りせまひしに。光君は極ずにて。此体見面へかつらせ
まふ所ま。かの事人のものとも立かつりて申ゆう。よひ
より玄麺門乃りたに立りくまて。うかゝひゝ所ぞ。多く
いま女車とも引ぐして。こうこさぞん乃御里の人を
かつらせ給。中に臣信乃かゝる。たゞ中無すといそぎあハ
てゝおつらせまふ所ある。かうこさぞん乃御さく
ありまやとおもふなどの久しきけれ。なほくの女車
とハ見えず。車三つゞりに引つゞあて。出給りしと申
あぐるよ。光君はまづむ○もつぶれて。いかゝしてそまき
うとしかゝこさぶめん。其の君もせよ六のさま
まもせよ。又右大臣どのこゝろをありまつぐ。明給ぶ
ぜひゞりうち人なれど。ことくしく章どの事ぞ。もて

なされんさのごくなるべし。さりとてハ。この御しきらで
うちすれんもロおしうるべし。いかゝせ御しとおもひと
つゝひてつくとかりめかしまつり。むしさ君の君いかゝ
さびしかん。当ちの御もよほれになれど。さびしこさゝ
多いく引してやあるんと。おりひやりまふ。ゝ乃おぼろ
月よりはらりへまひしあつざき。桜扇のさらら乃三
重かさ○にて。こきむしさ君の玉ゆりに。かすめる月を
りさて。おまうつせなんぞへ。もようハふるあれど。も
ちなしかゝるやなりしう。菓乃ちとを。とりしやや
おもふとて。うちつびらしおもりげ乃ゆりと御り
てつきしまれど

光君
世にしきしきちこそまれ有あけ乃
月のゆく雲をそしてりしまぐへて

初後段 桂宮源氏ゆくらの中の[illegible]をしてとさしかなりと云々
春後段 吉水僧正こ乃宮をとりて 有明の月のひかりをさらひてぞ[illegible]
の[illegible]さくへかりけるとよみまつるなり源氏とバ宮をも祠をも
とりてこもへさるり。[illegible]も源氏みさくむ宮よみ見ハ[illegible]のこと
なりといふ[illegible]花の[illegible]ハ[illegible]すくまて[illegible]なり
[illegible]まつけて。[illegible]大世間にして
おこさまふ。[illegible]も。このなどハおとつまに
[illegible]。いくとおほしめせども。むらさにのうへとん
もとなくて。[illegible]一日むらさにのうへをなくさめて
[illegible]のうへの[illegible]とおほしめして
まづ二条院へおりします。むらさにのうへを。[illegible]
ひことふうつくしさも[illegible]て。わいこゆうつさわ
いらしきんだへ。[illegible]

ひらさにいつをひよ。をしへ[illegible]とおもひ[illegible]かなひて
うましくおほしめす。[illegible]おとこ乃をし[illegible]ぢと
[illegible]ばかりて。いかしなることや[illegible]ぬもとなくおも
[illegible]花の[illegible]乃おもしろ[illegible]。[illegible]やうや[illegible]
[illegible]。[illegible]なくとし[illegible]て。[illegible]
[illegible]。むらさに乃[illegible]。いつも乃[illegible]におしうつ[illegible]
いまハかや。[illegible]のやうにもなく。[illegible]なるにまいの
もしらひまいす。[illegible]のこの[illegible]おりしましるに。[illegible]
ごとく。その[illegible]ぬもなけまバ。ひとりつくゞと
よろ[illegible]おもひめぐらして。[illegible]。さう乃[illegible]
なりして △[illegible]乃せでの。[illegible]
なくてと。[illegible]をうらひまいす。[illegible]
[illegible]の[illegible]大[illegible]の。[illegible]の[illegible]

出まひて。一ツ目乃花のえんのおもしろうらしこと。この年
まだなりし通て。ぬい出の御代に代を見ゆらしが。この
えびのゆうに訪久もまくまておもしろく。[illegible]ふ物乃
青海ぞくよくとてのひて。見こさくにつけてよいひの乃ぶら
ゆうなるもはあらざらき。その為く乃物の手ともおほく
とりつあうこもせの。語るこうしやにて。[illegible]ふまでこよく
しくあせまひし思ふ。一しかおもしろうらしぞうし。わゆう
感ふまあしかひて。此[illegible]もかんぞ[illegible]ぬべさんらし侍り
しせのまへだ。光君もまこしは。だまんにまて。いやさほぞ
かいりしろしきりもし侍らざる。ひしもいまも。おいま
まくまてしるものはかぶあしく。うけものいづまにて。おほ
やけにもいでつくぞ。こてかくこふこしを。かくまいらるを
ぞひいぶして。[illegible]ふまぞしきくませしろいりにて侍りし

かゝりのよりも。既中将のよひまひし。極宮苑太あらうぷらの
ちれてかんまるへこそほどまゝ君ゝ侍らしぎしてやうこまと
乃。立いでゝ舞せまうぐ。いまゝ乃よれめんがをほとこし。後
代まで乃かうりつゝへまるゝ侍らんもれをと。後ぞなりし
まふほどふ毎乃夫。中将とて。ごまもおふひ乃ことふたと
がいり乃此兄弟なるが。酒いりわいせまひて。忍んなものかう
らんまうりかうまて。いつまも笠ひちまさ。よこふえなぜ
こゝさわいせて。おそびまふ。いよくおもしろし。か乃おほ
ろ月まハ。たゞなかりしゆめ乃ゆうに。光君まわひまひし
ことおもひいでゝ。心のうちまハ。ゆしきゆゝなつしさ
やゝ。ひよくと抽なげかしう。なかめからまひしまふ
蓋ふへを。卯月まゝ酒いりまふまづなわぞ。もてやまもか
く。いかふもしていまゝしたび。此おんなしきまゝかと

おもふまうひなく日かずもすぐぬけど。素ふへまいりおひて後
わひ見なことも。いよくおもひさうこしなるんといり
なくおもひこそいまふ。光君も。ゆづ〇まいんまわしかるか
こさるまハわらねど。かうさてんまゝ乃人なわを。よ〇のふり
めをハわらさねども。ひごろかうさでんの。ゆまとよく酒後
まへだ。そ乃わらにくまあひ。もしつてもさせに志かけら
ま。うさ君ゆうてんもさのとくや。おもひいつくひ給。はしも
やしひ乃廿日過ま。こうさでん乃此父右大臣との此ある
して。弓の筆ちとて。臨家乃桜寡のふるまひありて
親王達ハいふまおまうぞ。二口勇上人乃らうす酒いりあつ
さりまひて。とくに夜の宮のえんせさせまふ。世ゝ乃
ちなぎうりハすれさうふ。かゝらりなん乃らにさけしやお
つゝ酒まひ乃ん。右大臣との此庭前れさいしこかん

いまとさうりと候見ざれておもしろなるに、御覧はあるべ
しくはしらるまひて。正綱の女房どもの日の晴れ
ゐ。見ぐさまつらせまゐらせ。かくまゐらせ御てされいなり
想じてこの右大臣どのは。なぶらにもいりゆ。うとなく
としてたてでなるものをまゐ。ぜひだりたる正氣賀之
なり。光君ふも一日大裏ゆくに乗物のありかしまゐ
りゆくそくありしがも。正出なりけまで。公家中ゐのさて
抽ぐかけて。どうやら抽乃まへなにゆうなれど。正子乃宮の
かれを正つりひして。正ふ見をつかはさう
右大臣 ワゲやどの花しなべて乃いろなるなり
なりかはさしらにさ見をゆさまし
とりかし光君は。大裏におはしゆせば。かれ大裏まで御
つゐゆりて。こ乃正ふをゆひしせしるふ。ひろ夫也に

はよし御りぐへそうもんゆさせまゐ。正門はうるを敵
現ありて。ワゲやどの花をなべてなしずれかめるゐは。志
ゐらかはなる家乃さゆりなく。うらいらせまひて。ひざれ
つりひとつかはされしよ。さうく御ひらまゐ。そのかうが姉
妹の女房もは。右大臣の孫なれど。あるにてそざら后
こころなれど。かゝ乃ゆうに。うとくしなすゐさまし
めなしず。角ぐひに中よく。志さしさがよかるべしと常に
右大臣とのと光さ見。正中よかしねを。正門も粹まて
よくまゐりしめしなれど。御いろんゆうにおはせしなれ
ば。光君をかしこゆりて。ゆりて正裂束門はくろひ
まてらしさをもさせて。ゆきうくなれば。いまやくと
御ふるかし見合て。正出宵あり。様乃夜の二条織
ものゝ正なとし。むしさしのうすさゆうなる。忍び海の

御下がり裾をかゞくりまして。見なんくるようのつまの
こさいしきの総来ろふぢどりたる大夫すがた
どうもいはれぬものがらにていつきいりますハ。まことに
ちひさなわらさゆ。御亭主の御志心乃器用いろいろも
光君りあいさおさわて。かの門でこともやゞかさぞ
わかもうが。御様のおもしろさいはれぬおよびず。此國より
りよもすこしかはりけど。光君そ。思ひさるものり
ますすて唐欲をするひととして。おくりさの
厳よ。こすさぞん乃御殿乃。廿一のうや。廿二乃うやのお
りしましす。京のかさのいつまニくちまりて御居。御爲
所なし。光君乃御兄弟なれど。御心中ぞおもりなりや
ぬしの常よ。こなる乃軒わのもいひ出て。さるさ
見ざりはなりたると見えますて。御かくしもあけ渡

て。女中が御座いますが。そぞまき乃下ようが見せけるぞうぞの
袖口とて御座なりて。御座りよろやうなあわる御。大
裏そ。端お乃せらえうなはまでろうがいぐしさねてかや
うなるこしハおもとども。取りしたやうやうしうさそ。殊
つかの中にあるなゞハ。そこらにあく乃見ことなすひて。ゆか
するこしを志まうだ。ろかるにつけても。こまのつねぞ
ちゃうまきも乃ぞやと。御門おもむいしも居。何とぞ
してこのおかりう。かの乃おほゆる月はをさしかふ。う
まで奴を志うだやしおもひなふ此志まれなりかなだお御
急ひ乃かりよもすひして。ごしのかゞちまりまして
こうしこさふ。つまよらいすぢかた。御兄弟のうし見るま
うけるもかくしして下されかんやとて。すぐわまく
わけて身をはずんかどさしいものつじ。女中彼

あいさ何よくしたることもゆゑおもひまひて△石川乃
こまうかゝよ。常をしらまして。かしこき物するといふ。ゆゑ
うこと。ひざかいひたゞへて。あふぎをとらしまして。かしこき
ゑかするかゝ。おぼしけることもひろふて乃まへだ。常をと
らまてたらば。後物もあるべきなれ乃こと。あふぎをと
られたゞりよハ。そまほどこうくわいもあるべ酒いまづ
乃ことじやのふ。あやしうも。かりをくらうこもうかど
りるかゝ。きいてふうにあいさ何しるハ。るふのたるにも
しらぬぐりちるうよ○るだ。あいさ何そせで只何と
あく。せうしくとこのどくがるかしきのよ○に。こさが
つさて。さてハこまるるべしと。ちやのこんでうの
よ○乃うどへよりて。本了ごしに是をにぎりて
光君 あつさゆゑいかなさの山にし酒しふりれ

なの君しあはれ月乃うけや君ゆるかゝ
らるゝあれ也へそさ身ゆへと。おしつけに乃まへた。おほろ
月しも。さてハ光君。つまどかゝあしかふしせまひかる
ぞかゝおもへだ。心のうち乃うましさ。えこうしまぬか
とゆく
賢よ 心いかるるしませは弘ちり乃
月るさ君よりしまよハましや也
光君の。志ん美ふおもひまで。月るさ君にて酒よひまりぐまるかゝ
いふハ志ん世間よるさまへぞと。源氏の家の中れよもしにかく
まてうち君たるるやじ。おほろ月よハ。天性家よ君なり
これよりすべく乃君にて。心をつけて君るべし
かゝいふこ思。たしうふかゝ乃ら○るわだ。光君の心あく
ろ乃内うましきと。かしあるひとゝ。ぞう君かゝとゝ也

享保十一丙午孟春穀旦

東武書舗　通銀町三町目　富士屋藏刊